

雪が溶けると〇〇になる・・・金沢便り・・・。22期 成島

2012年の1月から石川県金沢市に単身赴任となりました。初めての雪国での生活です。今年の石川県の冬は降る量は多くはないのですが、3月までは青空を見ることもなく、ほぼ毎日、あられ、雪、雷に悩まされました。太平洋側での生活経験しかない私にとって、一日も太陽の陽を浴びることのない生活は結構辛い日々でした。



2月5日、一晩で雪に埋れた愛車。スコップもなく途方に暮れていたところ、近くにいた小型シャベルカーが掘り出してくれました。感謝！感謝！でした。

マンションから犀川まで徒歩15分なので、天気の良い朝はウォーキングをしています。東京では開花宣言をしていましたが、金沢の桜の蕾は固く、雪が残っている寒々とした河川敷でした。

ところがどっこい。一度咲き出すと止まらない桜の生命力に感激。『世の中に たえて桜の なかりせば 春の心は のどけからまし。(在原 業平)』。今年は業平のこの歌を何回も口ずさみました。



4月8日の朝。ただ1本だけ先っぽがピンクの蕾を発見。



4月10日の朝。開花した桜を発見。ワクワクしました。



4月14日の夜桜です。兼六園から金沢城を臨む。開花から4日目で満開となりました。ここの花見は飲酒なし。酔っぱらいのいない花見は初めてでした。

「雪が溶けて水になる」のではなく「春になる」という、春を待ち望む気持ちに応えるように、一気に花咲く桜からエネルギーをもらいました。萎えかけていた自分が元気になっていくのを確かに感じていました。



4月19日には、河川敷の桜も満開状態。金沢は桜の銘木はありません。しかし金沢市内は浅野川・犀川等の川沿い、兼六園・金沢城、尾山神社を代表する神社、卯辰山、何気ない公園等に計画的に桜が植えられており、町中が桜のピンク色に染まります。青空の陽が続き、今までの雪と曇天が嘘のようです。



7月10日朝、鴨のお散歩。

犀川河川敷は自然を身近に感じることができます。片町という一番の繁華街から徒歩5分なのに、春はサクラマス、初夏は鮎釣りの名所です。また雉のオスが求愛の声をあげ、鶯や鴨が泳いでいます。河川敷では鴨が寝そべったり歩いたり、けして逃げたりしません。本当に自然が身近に感じられます。

金沢は四季がはっきりした土地です。歴史史跡も何気なく街の中にあります。ウォーキングしながら街を覚え、豊富な食材と美味しいお酒で食を楽しみ、有意義な金沢ライフを過ごしたいと思います。

「一度金沢に、おいでまし。」 お待ちしております。